

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」
学術知共創プログラム 中間評価結果

課 題	C：新たな人類社会を形成する価値の創造
研究テーマ名	人間・社会・自然の来歴と未来：「人新世」における人間性の根本を問う
研究代表者	中村 靖子
所属機関・部局・職	名古屋大学・大学院人文学研究科・教授
総合評価	
A- 概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である	
評価コメント	
<p>本研究テーマは、5つの重要なテーマで成果を上げており、研究プロジェクトチーム同士の連携がしやすい環境も整っている。国際ワークショップやシンポジウムで活発に議論が行われ、研究が順調に進展していることは高く評価できる。しかし、極めて多様なトピックを取り上げているだけに、研究テーマ全体のまとまりを示すにはさらなる工夫が必要と思われる。今後は、統一感と説得力のある成果を期待する。</p> <p>エージェント理論やテキストマイニングは、政治学や社会学では一般的な手法であり、社会科学とのさらなる連携を進めながら、学術知の共創を深めていくことを求めたい。また、AIによる分析手法に関しても、AI研究者から見て納得できる研究水準を保ちながら、人文学・社会科学を中心とする研究の特色を活かした知識の共創を進めてほしい。本事業の目的である社会的な課題解決への貢献については、今のところ具体性に欠けており、研究成果によって社会にどう寄与するかを考えることに力を入れていただきたい。</p> <p>研究はおおむね順調に進んでいるため、以上の点を勘案しながら、よりよい成果が得られることを期待する。</p>	